



マキアヴェッリと宗教 —社会・国家形成に〈神〉は必要か

近年の政治思想研究では、世俗化の名の下でこれまで看過されてきた社会・国家形成過程における宗教的契機への着目が高まっています。政治を宗教や道徳から切り離した、としばしば理解されてきたマキアヴェッリについても、近年の研究における重要な関心の一つが、彼の政治思想における宗教(神)の捉え方の問題にあります。

法学研究所では、日本を代表するマキアヴェッリ研究者四名をお招きし、この問題に関する各自の解釈を提示してもらい、相互に検討・批判し合う機会を設けることにしました。ご関心のある方々の参加を歓迎いたします。

2019年12月7日(土)

関西大学 千里山キャンパス
児島惟謙館1階 第1会議室

13:00~18:00

聴講無料・申込不要

プログラム

- 「マキアヴェッリと原始主義—マキアヴェッリにおける「始まり」の問題」
／厚見 恵一郎(早稲田大学)
- 「マキアヴェッリにおける暴力と宗教的誓約」
／石黒 盛久(金沢大学)
- 「マキアヴェッリにおける立法者と神」
／鹿子生 浩輝(東北大学)
- 「若きシュトラウス—神学・政治問題の起源について」／村田 玲(青山学院大学)

総合討論

司会／安武 真隆(関西大学)

共催:科学研究費 基盤(C)

「マキアヴェッリとフイレンツェの政治文化—社会形成に〈神〉は必要か」(課題番号 18K00100)

■お問い合わせ先

関西大学 研究推進・社会連携事務局
研究所事務グループ

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35
TEL:06-6368-0329 FAX:06-6339-7721
E-mail:hogakuken@ml.kandai.jp